



横浜市立桂小学校

桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

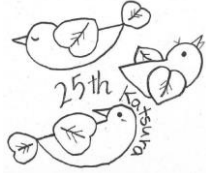
2月号

令和4年1月31日

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校HPのQRコードはこちら→



魔滅（まめ）

校長 寺澤 みゆき

2月3日は節分。例年、「鬼は外、福は内」と声をかけながら豆をまいたり、歳の数だけ豆を食べたりするご家庭も多いでしょう。

毎年、2月初めの朝会では、節分とそれにまつわる話をします。生活の中で何気なく行っている年中行事やいわれ、それに付随する話を聞くことによって伝統や文化、その歴史についての理解が深まるのではないかと考え、行っています。節分も、その一つです。

今回の学校だよりでは、2月1日の朝会で児童に話す内容を、地域や保護者の皆様にもお伝えしたいと思えます。

節分とは、その文字のとおり、季節を分ける、つまり季節が移り変わる節目の日を指します。四つの季節、春・夏・秋・冬の始まりの日（立春、立夏、立秋、立冬）の前日になるため、節分は1年に4回ありました。その中で、日本では春が1年のはじまりとして尊ばれたため、節分といえば春の節分のみを指すようになったようです。

立春を1年のはじまりであると考えれば、節分は大晦日（おおみそか）にあたります。平安時代の宮中では、大晦日に旧年の厄や災難を祓い清める「追儺（ついな）」と呼ばれる行事が行われていました。それが、室町時代以降は中国の習俗が伝わり、豆をまいて悪鬼を追い出す行事へと発展し、民間にも定着していったとのこと。豆は「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があるということです。

（参考文献：「日本行事を楽しむ12ヶ月 ぐらしの歳時記」）

3年生の国語では、「すがたをかえる大豆」という説明文を用いて学習を行っています。そこから発展し、総合的な学習の課題解決学習の材となり、学習を深めることも多い教材です。

我が国の重要な食材として大豆を学び、大豆が食べるだけでなく、年中行事にも深く関わっているのを知ること、子どもたちのさらなる文化への興味関心の高まりや、理解につながってくれるのではないかと期待します。

さて、節分で豆を投げつける「魔目」をもつ「鬼」は、もともとは「疫鬼」という疫病をもたらす鬼であったそうです。

今現在、さらなる感染が拡大している新型コロナウイルスを滅する思いを込め、今年の節分を迎えたいと思えます。

感染状況により左右される情勢のため、学校は複数の選択肢を考えながら、日々の教育活動にあたりています。しかしながら、教育活動の急な予定変更や中止を行わざるを得ない場合もあるかと思えます。どうぞご理解いただけますよう、お願いいたします。

このような時節柄、地域、保護者の皆様もどうぞご自愛ください。今月も桂小学校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。